

I LOVE ASEAN

祝広島アセアン協会設立10周年

広島アセアン協会（児玉幸治会長）設立10周年記念総会・ASEAN10か国駐日大使歓迎会が6月2日夕、リーガロイヤルホテル広島で開催された。

日本・ASEAN友好50周年の年とも重なり、ASEAN10か国駐日大使及び職員20名の他ASEANからの留学生（広島大等約50名）も招かれ、出席者は全体で約300名、予定時間を超える親睦・交流の場となった。アセアンは、現在議長国であるブルネイとカンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10か国。

1967年、東南アジア10か国の連合体として誕生したアセアン。この50年間で約6億5千万人の人口を有するアセアンの成長は目覚ましく、80年代のGDPは日本の10分の1であったものが、現在は10分の4と大きく伸び、巨大な経済圏を構成しつつある。

15年にはアセアン経済共同体が正式に発足し、貿易、投資、人材のよりダイナミックな移動により、一大生産基地、一大消費市場の実相を見せている。ここに至るには、日本とアセアンの相互信頼に基づく経済、観光、学術、教育、文化面での強い戦略的パートナーシップを地道に、築



き上げてきた背景がある。

かつてマレーシアのマハティール元首相が「ルックイースト」（日本を見做え）と喧伝した当時を思うと、感慨すら覚える。

ただ近年、中国の影響力は軍事のみならず、経済面においても増大するばかりで、相対的に日本のアセアンに対する影響力は薄らいできている感は否めない。

とはいえ、人口6億人超を抱えるアセアンは、最も近くにある友好的でかつ経済成長が見込まれる国々である。人種的にも宗教面でも、また風貌面でも、近い関係にある国々との交流と友好を深めることは、対中国とのバランス戦略に於いても重要な役割を担うであろう。

広島アセアン協会もこの10年、経済や文化、又人事交流においても動きが活発化してきている。協会副会長を務める小松節子

さん（メンテックワールド社長）、同社も経済や人材面での繋がりを深めてきている中、閉会の挨拶の中で、「皆さんアセアンは好きですか？私は大好きです」。その弾む口調には、以前にも増して広島とアセアンの関係が光彩を放っていくようにという願いが込められていたようにも見えた。